The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『中井木菟麻呂キリスト教関係草稿類』翻刻と解説（二）
Author(s)	佐野, 大介
Citation	懐徳堂研究. 2013, 4, p. 85-104
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/26935
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『中井木菟麻呂キリスト教関係草稿類』翻刻と解説（二）

佐野大介

一、解説

はじめに

本稿は、大阪大学附属図書館懐徳堂文庫内新田文庫蔵『中井木菟麻呂キリスト教関係草稿類』の内、「中井木菟麿再」の翻刻及び解説である。[1]「『中井木菟麻呂キリスト教関係草稿類』翻刻と解説（一）」（『懐徳堂研究』第三号、二〇一二年）の続編にあたり、「『中井木菟麻呂キリスト教関係草稿類』翻刻と解説（三）」（『懐徳堂研究』第五号、二〇一四年掲載予定）に続く。

一―一、全体構造

久保田からの二通目の質問状に対する返信の草稿。原稿用紙仮綴。全二十三葉。性質の異なる四つの部分より構成される。

冒頭二葉でこの返信を撰するに至る理由を述べ、返事が遅れたことを詫びる。

第三葉に「辨明書ニ答フ」と題されており、以下質問への回答となっている。約二字下げにて「来書ニ曰ク」より始まる久保田の書翰の引用を示し、その後ろに自身の回答を記す。全六問。

第一九葉裏倒三に「来書中引用スル所ノ自識録短評」と題し、以下に久保田が前回の書翰に付した自説に対する意見や反論を述べる。「第四章」「第十章」「第三十章」「第三十一章」「第三十八章」「第四十八章」「第七十四章」より始まる七節よりなる。

さらに、第二一葉裏倒二「来書第一義」、第二二葉倒一「第二義」とあり、それぞれ一通目の質問状に久保田

の質問とそれに対する回答を短く纏めてある。

一―二、内容解説

一―二―一、辨明書ニ答フ

第一項は、回答に注疏を引くのは迂遠だとの指摘に対し、「僕ガ本章ニ対スル解説ト其旨趣ヲ同ジクスルヲ以テ、偶之ヲ引ケルノミ」と回答する。

第二項、「返信1」と同じく、孔子は鬼神生死について知らないとしたことに対する反論に対する回答。この反論に対して木蒐麻呂は、まず「知る」という概念を二種類に分けて解説している。

人智ノ及ブベキ範ニ屬ス。是レ第一ノ意義ニシテ天然法ヲ以テ了解スベキモノナリ。

人智ノ及バザル所ニシテ、之ヲ知悉セントニハ、天ヨリノ啓示ヲ蒙ランコトヲ要ス。是レ第二ノ意義ニシテ、天然而上ノ方法ヲ以テ了解スベキ者ナリ。

木蒐麻呂は、「知る」を、第一義「人智ノ及ブ範囲」と、第二義「天ヨリノ啓示」が必要な範囲とに分割する。そうして、「返信1」にもあったように、儒教はキリスト教と異なり、「天ヨリノ啓示」がないため、

第二義ノ知得ニ至リテハ、人智以上ニ屬スルガ故ニ、孔子ノ大聖ヲ以テスト雖、亦知ルコト能ハザルハ明白ナルコトナリ。

としている。孔子であっても第二義の内容に属する「死生の事」について知ることはできないのである。以下、久保田が反論に用いたものと考えられる経書における「神」語の用例を列挙し、それらの用例は全て「真ニ神ト名ヅクル」(＝人格神)の意ではなく、「神妙不測ノ効用」を指すものであると指摘している。例えば、『易』の「天之神道」語に対して、

斯ノ神道トハ、即至神又ハ神妙不測ノ道ト云フコトニテ、神ハ鬼神ノ神ニアラズシテ、形容詞ナリ。

として、「神道」が「人格神の道」ではなく、「神妙な道」の意であるとするごとくである。

第三項、経書の「皇天上帝」は人格神を指しており、木蒐麻呂の言う「神」と同じではないのか、という指摘

に対して、「返信1」と同じく、経書の「天」は人格神的であるとして容認しつつ、宋儒の理気説を否定している。

第四項、天は言を発したり直接誡命を授けたり指導したりするのか、という質問に対して、天は預言者の口を以て神意を伝え、十戒とイエスの新戒とを授けたとする。また、後半は奇跡・不思議について論じ、「神妙不可思議ナル事蹟ノ中ニモ、自ラ二種アリ」として、「真ニ神造物主ノ全能力ニ由リテ行ハルルコト」と「誕謾妖妄ニシテ信ズベカラザルコト」とに分別し、キリスト教の奇跡は前者であり、それ以外の奇跡は後者であるとする。

第五項、久保田が恐らくは皮肉として、「若シ真実ニ天ナリ神ナリガ直ニ訓示誡命スルモノトセラルルナラバ、生ハ雀躍拜跪、病床ヨリ起チテ、従来学ブ所ノ道ヲ悉ク撤去シ、俯伏趨走速ニ其ノ教ニ従フノ、後ルルヲ恐ルルモノナリ」とするのに対し、

斯ノ一條ヲ見レバ、貴下ガ儒教ヲ確守セラルルニ拘ラズ、眞理探究ノ為ニ寛宏ナル度量ヲ有セラルルコトヲ知ルベシ。瞻仰ノ至ニ勝ヘズ。

とのみ返している。

第六項、あらゆる宗教は「天ノ造物主宰」について述べたもので、方法や道が違うだけではないか、との久保田の意見に対して、「今ハ儒教対基督教ノ研究ニ属スルガ故ニ、唯儒教ニ就キテノミ之ヲ言ハン」として、再度儒教の天について言及し、「無極 → 太極 → 陰陽 → 万物 → 鬼神」という順序で造化を説く「易道」（＝宋儒・理気説）を「唯理論」であると批判し、古聖賢の天観を「唯一神教」として容認する発言を作している。

一―二―二、来書中引用スル所ノ自識録短評

次に、「来書中引用スル所ノ自識録短評」は、末に「唯以上ニ列挙セラレタル所ハ、多クハ是レ腐儒固陋ノ見ノミ」とあることから、質問状に付された久保田の「自識録」載す見解の中で、木菟麻呂が「腐儒固陋ノ見」と判断した意見を批判したものと分かる。まず、各段冒頭に「第〇章」として対象とする章を示し、以下に反論を述べる。

第四章、キリスト教の奇跡と「他ノ異端邪教ノ奇事怪説」とを「同一視スベカラズ」との指摘。

第十章、終末論。世界には終末があるとの指摘。

第三十章、久保田が宗教全体を「怪誕不経」としたこ

とに対する批判。

第三十一章、「是モ浅薄ナル偏見ノミ。彼此言フニモ及バズ」の一文のみ。

第三十八章、十字軍に関する論。先の質問書にて、久保田が、十字軍が多くの人間を殺戮したことを指摘したものと思われる。十字軍の「悲惨ノ所業」について、「是レ基督教其者ノ罪ニアラズシテ、宗教ヲ偏信スル人民ノ罪悪ガ、偶宗教事故ノ上ニ於テ激発シタルノミ」として罪をキリスト教ではなく「人民」に求めた上で、さらに、

此等ノ争亂ヲ起シタルハ、共ニ他教派ニ屬スルモノニシテ、我等ノ信奉スル所ノ基督正教會ニハ何等ノ關係ヲモ有セザルナリ。

として、ロシア正教会以外の会派に罪を帰している。十字軍は主にカトリックによる活動であり、コンスタンティノポリスを攻め落とされた被害者ともいえるオーソドックスとしては、このことで責めを受けるのは不当と感じられたのかもしれない。

第四十八章、「人間ノ霊魂ノ不死不滅ナルハ、是レ乃万物ノ霊長タル価値ノ存スル所ナリ」として、霊魂不滅を論じる。そうして、その論拠に、

若シ死後消滅スル者ナランニハ、其運命ノ禍福鳥獣ト大差ナキナリ。豈此ノ理アランヤ。

として、万物の霊長である人間の死生禍福は鳥獣と異なるはずと断言する。[2] 人間が真に「万物の霊長」であるのかどうか、また、「万物の霊長」の死生禍福は鳥獣のそれと異なっているのかどうか等については論証されない。

第七十四章、「是ハ先三十余年前位ノ本邦人民ノ頑冥ナル思想ヲ代表セシモノナルベシ。唯其識見ノ固陋ナルヲ表白スルノミ」とのみあり、何を指したものかは未詳。あるいは明治六（一八七三）年以前のキリスト教禁制を指したものか。

木蒐麻呂は「来書中引用スル所ノ自識録短評」を、

自識録中ノ他ノ章ニハ、蓋　貴下ガ所謂金玉ノ論卓拔ノ見アラン。唯以上ニ列挙セラレタル所ハ、多クハ是レ腐儒固陋ノ見ノミ。取ルニ足ラザルナリ。

と結んでいる。「貴下」語の上に空格を配し、久保田に敬語を用いる等、全体的に礼儀に配慮した書きぶりとなっているが、その意見に対しては、「批評スベキ価値

ダニナキ者トス」「是モ浅薄ナル偏見ノミ。彼此言フニモ及バズ」「是レ腐儒固陋ノ見ノミ。取ルニ足ラザルナリ」などと、かなり強い言葉で批判していることが見てとれる。

一―二―三、来書第一義・第二義

久保田の一通目の質問状の第一問について再度短くまとめたもの。

第一義「貴下ハ吾ガ大主教ガ、孔子ガ神造物主ノ事ヲ教フル迄ニ至ラザリシト云ヒシヲ挙ゲテ、如何ナルコトヲ指サレタルカト疑問ヲ発セラレタリ」とした後、「返信1」には見えない「愛」という視点を持ち出し、

> 神ト人トノ關係ハ、父子ノ情ヲ以テ結合セラレ、其慈憫愛憐、皆此ニ依リテ發現ス。儒教ノ天ニ對スル觀念ハ、專ラ「敬」ノ一字ニアリテ、「天」「旻天」等ノ語ニハ、微ニ其意ヲ含メリト雖、常ニ愛慕ノ情緒ヲ閑却ス。

と、キリスト教の「神―人」関係が愛に基づくものであるのに対して、儒教の「天―人」関係が敬に基づくものであると指摘する。そうして、その故に儒教は、

> 安ゾ能ク神ヲ教フト云ハン。

と結ぶ。「神―人」間には「愛」が必須であり、これを欠く関係は、「神―人」関係とは認められないというドグマが見てとれる。

第二義「大主教ガ儒教ハ人ノ渇ヲ医スルニ足ル者ニ非ズト云ヒシニ対シテ詰問セラレタリ」として、久保田の儒教が「治国」に有用であるとの意見を「何ゾ其思想ノ淺キ」として、「心霊上ノ永遠無窮ニ属スル渇」を癒やせるのはキリスト教のみであるとする。

おわりに

本草稿は「返信1」に納得いかなかった久保田の再販論に対する回答であり、「返信1」で述べた回答を敷延する形で自説が述べられている。「返信1」で見られた宗教観に加え、

一、「知る」を「人智を以て知る」と「天啓によって知る」との二種に弁別し、後者は天啓を受けたキリスト教のみが得られるとする。

二、神と人との間には「愛」が必須であり、これを備えるキリスト教の儒教に対する優越を説く。

といった点が見られる。

ただ、この二通目の返信によっても久保田は納得しなかったものと見え、木蒐麻呂の日記『秋霧記』には、三通目の質問状を受取ったことが記されている[3]。当時の儒者からのキリスト教観の一端を示すものであり、木蒐麻呂が己の「天職ナリト信ズル」とする「儒流ニ對シテ眞理ヲ闡明スル」必要性を示すものであるともいえよう。

二、書誌情報

中井木蒐麻呂撰　手稿

〔寸法〕縦二四・二×横一六・三（cm）

〔書式〕藍色で印刷した四周双辺。10行、20～30字。

〔版心〕白口。黒魚尾。横一線。（葉数）。

〔内題〕「中井木蒐麿再」（「中井木蒐麿」のみ小字）

〔外題〕帙題簽「中井木蒐麻呂キリスト教関係草稿類」。

〔奥書〕「七月二十五日」

〔印記〕「新田文庫」「79CL00529」「開架図書」

〔装訂〕仮綴。全二十三葉。

〔備考〕冒頭約二葉分の手紙部の後ろに、「辯明書ニ答フ」として、質問状への回答を付す。

〔蔵書票〕「E149　天生関係38　365」

三、翻刻

凡例

・底本として、『中井木蒐麻呂キリスト教関係草稿類』（大阪大学附属図書館（懐徳堂文庫内新田文庫）蔵、蔵書票E149／天生関係38／365）を用いた。

・翻刻に当っては、底本の文字にできる限り沿うよう留意したが、印刷の都合上改めた箇所もある。

・底本には句読点は付されていないが、読者の便のため句読点を付した。

・底本は草稿であり、ところどころ朱による修正や見せけちがあるが、修正に従った。

・書名に『　』、引用及び発言部に「　」を付した。

・漢籍の引用には（　）にて出典を示した。

・「僕」「僕等」等小字で記されたものは小さいフォントにて示した。

・葉および表裏のくぎりで改行して注記を付した。

中井木菟麿再

久保田啓十郎尊臺ノ座右ニ拜覆ス　貴下ハ僕ガ五月十四日ヲ以テ送上セシ覆翰ニ對シテ更ニ質疑辨明セラルル所アリ。其二十二日ヲ以テ第二書ヲ辱ウセリ。書意精切ニシテ、求道ノ至誠紙上ニ旁礴ス。欣眼ノ至ニ任フルナシ。書中言フ所、悉ク是レ人生必須ノ要義ニシテ、一日モ緩クスベカラザルヲ以テ、宜シク速ニ疑義ヲ辨解シテ、至道ノ存スル所ヲ説明スベキナリ。然ルニ曩ニ書ヲ以テ答辭ノ遷延ヒシコトヲ謝セシガ如ク、爾来業務ノ繁劇ナルニ加ヘテ、諸事ノ左右ニ牽纏スルアリ。實ニ筆述ノ閒ヲ得ズシテ、遂ニ數十日ノ久［一表］

シキニ及ベリ。伏シテ恕瞀アランコトヲ乞フ。　尊書又吾ガ大主教ニコライ師ヲ景慕セラルル情意ヲ開示シ、師ガ新来ノアンドロニク主教ト交代シテ歸國セラルベシトノ風説ヲ聞キテ、深ク以テ遺憾ト為シ給フ意ヲ陳ベラレタリ。然レドモ、是レ全ク誤聞ニ屬ス。ニコライ師ガ我ガ邦ノ正教會ノ為ニ盡瘁セラルルハ、固リ終世献身ノ素志ヲ實行セラルル者ニシテ、中道廢止シテ歸國スルガ若キコト萬萬アルベカラズ。請フ　台慮ヲ安ジ給ハンコトヲ。之ニ反シテ、アンドロニク新任主教ハ、ニコライ師ノ後任ト為ルベキ重職ヲ帶ビテ渡来セラレシナリト雖、幾モナクシテ悪性ノ腦貧血症ニ罹リ、風土ノ相違［一裏］亦大ニ關係スル所アルガ故ニ、醫師ハ切ニ歸國シテ静養スル外ニ治愈ノ方法之ナキコトヲ勸告シタルヲ以テ、終ニ去月十二日ヲ以テ歸國ノ途ニ上ラレタリ。此レ僕等ノ均シク憾念ニ勝ヘザル所ナリト雖、ニコライ師ノ健在セラルルヲ以テ、尚意志ヲ堅定スル所アルナリ。師ハ已ニ

貴下ガ求道ノ情思切實ナルヲ歎賞シテ、僕ニ斯道研究ノ便宜ヲ供センコトヲ命ゼラレタレバ、僕淺陋ナリト雖、微力ヲ效シテ眞理發見ノ為ニ聊供給スル所アラント欲ス。何ゾ啻師命ヲ奉ズルノミナラン。僕儒門ヨリ出デテ正教ニ歸セシヲ以テ、儒流ニ對シテ眞理ヲ闡明スルハ、亦是レ其天職ナリト信ズルナリ。伏シテ微［二表］意ノ存スル所ヲ諒セラレンコトヲ請フ。頓首

七月二十五日［二裏］

辨明書ニ答フ

尊書中、言辭ノ放漫ニ失スルヲ謝セラル。是レ論辨中免レザル所ナリ。僕ノ書中ニモ亦恐ラクハ行文ノ間ニ於テ不恭ニ渉ル語句ナキ能ハザラン。俯シテ饒恕アランコトヲ祈ル。

尊書中、今一回質疑ヲ試ミンコトヲ請ハル。何ゾ止一回ノミナラン。唯眞理ノ證明セラレンコトヲ期スルノミ。

来書ニ云ク、邢昺ノ疏ヤ辨疑、又陳羣等ノ言ヲ引證セラレタルハ、實ニ生ニ取リテハ諺ニ云フ、歯痒キノ感［三表］アリ。

孔子ヲ尊崇シテ、其識人智以上ニ在リトマデ過称セラルル貴下ニアリテハ、僕ガ邢昺陳羣等ノ説ヲ引證セシヲ以テ歯痒シト感ゼラルルハ左モアルベキコトナレドモ、僕ニ在リテハ然ラズ。邢昺陳羣等ガ一般ノ經説ハ兎モ角モ、唯此ノ一章ニ於テハ經旨ヲ正當ニ解釋シテ語意ヲ切實ニ發揮スルコト、僕ガ本章ニ對スル解説ト其旨趣ヲ同ジクスルヲ以テ、偶之ヲ引ケルノミ。吾ガ家説モ亦本章ヲ解クニ斯ノ諸説ヲ以テセリ。其妄ニ經ノ本義ヨリ逸セザルヲ以テナリ。此等ノ意、以下解説スル所ニ於テ了得セラレンコトヲ請フ。［三裏］

来書ニ云ク、生ガ鬼神ト生死ノ事ハ孔子ガ言ハザルニモアラズ、又知ラザルニモアラズト言ヒシヲ、是レ虚辭ヲ以テ孔子ヲ過称スル者ニシテ反リテ先聖尊崇ノ道ニ非ズトナシ、遂ニ孔子ヲ以テ是等ノ事ヲ知ラザル者、又言ハザリシ者ト斷定セラレントスルハ何ゾ。大早計ノ甚ダシキヤ云云

之ヲ辨明スルニハ先ヅ知ルト云フコトノ解説ニ就キテ研究セザルベカラズ。鬼神死生ノ事ヲ知ルト云フニモ、唯知ルトバカリニテハ語意漠然トシテ、當否ヲ斷定スベカラズ。此ノ知ルト云フコトハ程度問題ニシテ、自カラ二條ノ意義アルコトヲ承知センコ［四表］トヲ要ス。

天地間ニ有形ナル萬象ノ外ニ、一ノ無形有能ナル神靈アルコトヲ知ルハ、人性自然ノ要求ニシテ、何人モ少シク心ヲ物象以外ニ注グ時ハ必斯ノ一事ニ想到セザルヲ得ズ。唯之ヲ知ルニ、深淺厚薄ノ差アリテ、賢聖達德ノ人ハ比較上深ク之ヲ知得シ、凡庸下愚ノ者ハ遠ク之ニ及バズト雖、之ヲ知ルハ、同一ノ程度ニシテ人智ノ及ブベキ範圍ニ屬ス。是レ第一ノ意義ニシテ天然法ヲ以テ了解スベキモノナリ。死生ノ事モ亦然リ。人類ニ死アリ、又生アル理ヲ知得スルハ、同ジク第一ノ意義ニ屬ス。

單ニ天上ニ有能者アルコトヲ知ルト云フノミナラズシテ、其性［四裏］情如何、其天地萬有ニ於ケル關係如何、其人類ニ於ケル關係如何ヲ知リテ、神旨ニ適フ事ト適ハザル事トヲ判定シ、人ハ之ニ對シテ如何ナル本分ヲ盡スベキカヲ精細ニ知悉スルハ、人智ノ及バザル所ニシテ、之ヲ知悉セントニハ、天ヨリノ啓示ヲ蒙ランコトヲ要ス。是レ第二ノ意

義ニシテ、天然而上ノ方法ヲ以テ了解スベキ者ナリ。死生ノ事モ亦然リ。唯生アレバ必死アル事ヲ知ルノミナラズシテ、人ハ如何ニシテ生レ如何ニシテ死スルカ、何ニ由リテ人間ニ死アルカ、人間死後ノ運命ハ如何ナルカ等ヲ知得スルハ、人智以上ノ事ニ屬ス。均シク是レ第二ノ意義ナリ。

僕モ亦、已ニ前書ニ於テ、古聖賢ガ天ニ對スル觀念ハ此ヲ［五表］以テ意思智能ヲ具有シ、天地牽制ノ權力ヲ保持スル者ト爲シテ、或程度マデハ神造物主ヲ推測スルヲ得タリシナリト述べ置キタレバ、敢テ孔子ヲ以テ天ノ有能者ヲ識認セザリシ者ナリトハ言ハズ。然レドモ、之ヲ識認セシハ、所謂第一義ノ知得ノミ。第二義ノ知得ニ至リテハ、人智以上ニ屬スルガ故ニ、孔子ノ大聖ヲ以テスト雖、亦知ルコト能ハザルハ明白ナルコトナリ。然ルヲ之ヲ尊崇スルノ極、敢テ孔子ヲ以テ天然而上ノ第二義ヲモ知得セシ者ナリト斷定スルハ、虚辭ヲ以テ過称スルニ外ナラズ。然レドモ、貴下ガ僕ノ斯ノ語ヲ爲シヲ以テ、大早計ナリト言ヒ、其言フ所ノ虚辭過称ニアラザルヲ辨ゼ［五裏］ラレシハ、畢竟　貴下ハ孔子ヲ以テ第二義ヲモ知得セシ者ナリト斷定セラレシナラン。又死生ノ事ニ關シテモ、孔子ガ第二義ニモ立チ入リテ、死後ノ事マデモ了解シタリト言フハ、過称タルヲ免レズト雖、貴下ガ是スラ虚辭ニアラズトセラルル所ヲ見レバ、孔子ヲ以テ第二義ヲモ知得セラレタリトセラルルニ相違ナカラン。　貴下ハ孔子ガ鬼神ノ事ヲ知リタル證トシテ、『論語』ノ三處ヲ引用セラレタレドモ、是レ皆第一義ノ知得ニシテ、僕モ亦承認スル所ナリ。何ヲ以テカ其過称ニアラザル所以ヲ立證スルヲ得ン。

貴下ハ又、其言フ所ノ虚辭過称ニアラザル證トシテ、『易』ノ彖傳［六表］及ビ繫辭傳ノ語ヲ引證セラレタリ。然レドモ、啻ニ斯ノ二傳ノミナラズ、十翼傳皆孔子ノ筆ナリト云フニ於テ疑アリ。未以テ先聖識神ノ程度ヲ立證スルニ足ラズ。假使之ヲ以テ真ニ孔子ノ筆ナリト云フトモ、本是レ荘重ナル詞句ヲ以テ易道ヲ称贊スル者ナレバ、直ニ此ヲ以テ古聖ガ識神ノ蘊奥ヲ遺憾ナク發揮シタルモノト為シテ、所謂第二義マデヲ知得シタル者ナリト立證スベキ點ヲ見出スコト能ハズ。況ヤ何ノ處ニ於テ死後ノ事マデモ知リタルヲ證シ得ベキカ。然レドモ、先ヅ念ノ爲ニ一一其擧示セラレシ所ニ就キテ之ヲ辨ゼン。

觀彖傳曰、觀天之神道、而四時不忒。聖人以神道［六裏］

設教、而天下服矣。（彖伝）

斯ノ神道トハ、即至神又ハ神妙不測ノ道ト云フコトニテ、神ハ鬼神ノ神ニアラズシテ、形容詞ナリ。此ハ何ノ證明ニモナラザルベシ。

繫辭傳曰、仰以觀於天文、俯以察於地理。是故知幽明之故。（繫辭上伝）

原始反終、故知死生之説。（繫辭上伝）

精氣為物、遊魂爲變。是故知鬼神之情状。（繫辭上伝）

此等ノ語ハ、貴下ガ言ハレシ事ノ虚辭過称ニアラザルコトヲ證明スル料トハ為ラズシテ、反リテ古聖ノ知ル所ハ所謂第［七表］一義ニシテ、第二義ニ達セザル證左ト為レリ。如何トナレバ、幽明之故ヲ知ルニモ、他ニ類推スベキ者ナクシテハ、聖人ト雖知ルコト能ハズ。其之ヲ知ルト云フハ、即上ニ天文アリ下ニ地理アリテ、昭明幽闇ノ別アルヲ觀察スルニ由リテ得タル所ノ知識ノミ。死生之説ヲ知ルト云フモ、物ニ本末終始アルニ本ヅキテ、生アレバ必死アラザル可カラザルヲ知ルコトヲ云フノミニテ、死後ノ事ヲ知ルニハアラズ。死後ノ事マデヲ知ル明アラバ、原始反終等ノ事ニ由リテ推測スル必要アラズ。鬼神ノ情状ヲ知ルト云フモ、精氣ノ聚マリテ形ヲ成シ、游魂ノ散ジテ變ズルヲ為スコト即生ヨリ變ジテ死ト為ルコトニ［七裏］由リテ、鬼神ノ屈伸往来ノ動静ヲ推測スト云フノミ。所謂第二義ヲモ知得シタリトノコトハ箇裏ニ見出スコト能ハズ。斯ノ三條ニ因リテ知ルベシ。幽明死生鬼神ヲ知ルト云フモ、皆此レ他物ノ形迹動静ヲ觀察シ、之ニ因リテ推測スルニ外ナラズ。推測ヲ以テハ、トテモ神造物主ノ情性、天人密接ノ關係ヲ知ルコト能ハズ。

範圍天地之化云云。故神无方而易无禮（繫辭上伝）

是ノ神ノ字、易ニ對シテ言フ。亦是レ至神ノ妙用ナリ。真ニ神ト名ヅクルニアラズ。

陰陽不測之謂神。（繫辭上伝）［八表］

是モ亦神妙ノ功用ヲ謂フ。直ニ鬼神ノ實體ヲ指スニアラズ。

神以知来、知以藏往。（繫辭上伝）

是モ上文ノ「圓而神方以知」（繫辞上伝）ヲ承ケテ言フガ故ニ、矢張神妙ナル功用ヲ言フノミ。

知變化之道者、其知神之所爲乎。（繫辞上伝）

是レ神ノ所爲ヲ悟了シタルヤウニ見ユレドモ、此モ亦、程度問題ニシテ、斯ク言ヒタレバトテ直ニ所謂第二義ニマデ通ジタリトノ證左ニハナラズ。況ヤ是等皆易道称贊ノ辭ニ過ギザルヲヤ。［八裏］

窮神知化、德之盛也。（繫辞下伝）

知幾其神乎。（繫辞下伝）

是等ノ「神」、皆神妙不測ノ功用ヲ指ス。上文ノ「民、咸用之謂之神」（繫辞上伝）、「鼓之舞之以盡神」（繫辞上伝）等ト同ジ。以テ證ト為スベカラズ。

説卦曰、神也者、妙萬物而爲言者也。（説卦伝）

是レハ神其者ノ妙用ヲ述ベタレドモ、第二義識認ノ證據トハナラズ。

僕反覆シテ之ヲ言フ。凡ソ經籍ニ見レタル程度ニ由リテ、古聖賢ガ神ヲ識認セシコトハ、僕モ亦已ニ之ヲ言ヘリ。唯　貴下ガ經籍中、第一義ニノミ屬スル識認ヲ指シテ第二義［九表］

ニ應用セラルルガ故ニ虚辭過称ト云ヒシナリ。

貴下ハ又、『論語徵』ノ語ヲ引證セラレタレドモ、「知鬼神知死」[4]ノ言ハ、何ノ意ニモ取ルコトヲ得ベシ。若シ繫辭ノ言ノ如キ程度ニ取レバ、僕モ亦之ヲ承認スト雖、第二義ニ解釋スレバ、否定セザルヲ得ズ。「聖人以神道設教」（『周易』「觀」彖伝）ト云フハ、上述ノ如ク至神妙用ノ道ヲ指ス。徠翁ガ直ニ之ヲ鬼神ニ解釋シタルハ誤レリ。貴下ハ諸家ノ説ヲ引用スルヲ好マザルニモ拘ハラズ、徠翁ノ説ヲ引カレタレバ、僕モ亦之ニ對シテ並河天民ノ一言ヲ擧ゲン。云ク、「堯舜之聖、不能前知筐中之物。周孔之智、不能逆識来日之變。況於死生相隔之事哉」（『天民遺言』「生死鬼神」）ト併シ［九裏］

貴下ガ直ニ經文ヲ根據ト為シテ、注者ノ説ヲ襲ハズト述ベラレタルハ、僕モ亦贊同スル所ナリ。

来書ニ云ク、果シテ前述ノ如シトスレバ、取モ直サズ、生ノ述ベタル吾人々類ハ生死禍福吉凶榮辱、一ニ皆之ガ管理ヲ受ケ云云ハ、貴説ノ所謂活動自在ノ天ナリ。意思智能ヲ具有シ、天地統制ノ最大權力ヲ

保持シ、下土ヲ照臨スルモノ、即チ活潑々地ノ神靈ニ非ズヤ

然リ、經籍中ニ所謂「天」或ハ「皇天上帝」ハ、暗ニ天地統制ノ最大權力者ヲ言ヒシニ相違ナシ。唯　貴下ガ前書ニ於テ［十表］

宇宙ノ玄理萬有ヲ創造セシ靈妙不可測ナル神理ト云ハレシハ、僕等ノ謂フ所ト衝突スルコトナキ能ハズ。如何トナレバ、僕等ノ所謂神ハ、意思智能ヲ具有スル者ナルガ故ニ、敢テ之ヲ理ト言ハズ。サレバ經書中ノ天ニ對シテハ、其歸スル所ヲ同ジクスルヲ知ルト雖、「理」ノ一字ヲ下スニ於テハ全然相違スルヲ見ル。理ニハ意思智能ナケレバナリ。

来書ニ云ク、夫レ貴教ガ如何ニ至大至要ナル天人關係ノ道アルニセヨ、

天親ラ言ヲ發シテ人ニ示スモノナルカ、

天親ラ人ニ誡命ヲ授クベキモノナルカ、［十裏］

天親ラ人間ニ接近シテ人生至福ノ道ヲ指導スルコトアルカ。

貴下ハ是クノ如ク疑問ヲ發シテ、之ヲ以テ奇怪不思議ノ事ト為シ、畢竟支那讖緯ノ説ニ類スルモノニシテ、誕謾妖妄致詰スベカラザルモノト為シ、ヨモヤサル幼稚ナル事ヲ言ハルルニハ非ザルベシトテ、比喩ニ属スル言ナルベシトマデ陳ベラレタリ。然レドモ、前問三條ハ決シテ讖緯ニ類スルガ如キ誕謾妖妄ノ言ニアラズ。亦比喩ニモアラズシテ、吾ガ基督教ノ重要事件タリ。基督教ハ、實ニ此等ノ奥義ト史實トヲ以テ堅定確立セラルルモノニシテ、其旨ヤ深遠、其義ヤ廣大ナリ。此ヲ除キテハ、［十一表］

基督教ハ一日モ存立スベカラズ。　貴下ハ之ヲ見テ幼稚ナリト評セラレタレドモ、是クノ如キ軽言ハ反リテ其天下ノ至大ナル宗教ノ奥義ヲ達觀スル眼識ノ尚幼稚ナルヲ證スルモノトナラン。

第一ニ天親ラ言ヲ發シタルコトハ、人類ノ始祖ガ初メテ神ノ創造ヲ受ケシ時ヨリ已来、神親ラ活言ヲ以テ教誨指導シ、又歴代預言者ノ口ヲ以テ其幽微ノ旨ヲ傳達セシメ給ヒシコト、勝ゲテ數フベカラズ。勿論神ハ形體ヲ具有セザル者ナレバ、其言フ所ハ必シモ聲音ヲ假ラザルベカラズトニハアラザレドモ、人類ハ形體ヲ具ヘテ、視聽其用ヲ為スガ故ニ、形體ヲ具フル人類ニハ［十一裏］聽キテ覺ルベキ聲音ニ由リテ意思ヲ傳達シ給ヒシナリ。

第二ニ天親ラ誡命ヲ示シタルハ『舊約』ニ在リテハ、神

ガ原祖ニ禁誡ヲ授ケ給ヒシヲ始トシテ、後ニハ預言者モイセイニ十誡ヲ授ケ給ヒ、又活言ヲ發シテ多種ノ誡命ヲ垂レ給ヘリ。『新約』ニアリテハ、神子基督ハ新ナル誡ヲ門徒ニ授ケテ天下萬世遵奉スベキ教基ヲ定メ給ヘリ。今吾ガ教會ニ於テ遵守スル所ハ、皆斯ノ十誡ト基督ノ新誡トニ外ナラズ。斯ノ誡ニ於テ人類ガ神ニ事フル道ヲモ人類相互ニ守ルベキ法ヲモ、詳細ニ教示セラルルナリ。儒教ニ於テモ、人類ノ遵守スベキ道ハ經籍ニ於テ教示セラレタレドモ、是人倫彝則ノ外ニ出デズ。神ニ事フル道ハ、斯ノ［十二表］

裏ニ求ムベカラズ。無論天ニ事ヘ鬼神ニ奉事スルコトハ教ヘラレタレドモ、是レ單ニ敬ミテ天ヲ恭フバカリニテ、如何ニスベキガ天意ナルカ、如何ニセバ天ノ旨ヲ行フヲ得ベキカニ至リテハ、漠然トシテ捕捉スベカラズ。是レ神ノ直示ナクシテ奥義ノ存スル所、知ルベカラザレバナリ。其他ノ諸誡ニ至リテモ、人間ノ教ハ唯良心ノ指導ヲ標準トシテ定ムルナリト雖、基督教ニ於テハ、一ニ神ヨリ明示セラレシ所ナルガ故ニ、其人爲ノ誡命ニ秀出スルコト萬萬ナリ。第三、天人密接ノ關係ヲ以テ至福ノ道ニ指導セラルル事ハ、『舊約』ニ於テハ神親ラ活言活蹟ヲ以テ人類ト近接シテ、將来人間ニ救贖ノ道ノ立テラレンガ為ニ預備［十二裏］

シ給ヒ、『新約』ニ於テハ、神子親ラ人體ヲ受ケテ人類ノ間ニ生レ救贖赦罪ノ道ヲ建立スルニ因リテ、益人類ト密接シテ、之ヲ至福ノ道ニ導キ給ヘリ。以上叙述セシ所ハ、其大要ニ過ギズ。『舊新約』ニ經ニ就キテ見給ハバ、歴歴トシテ其實蹟ノ行ハルルヲ知ラン。

凡天地間ニ實現スル事、或ハ經典史書ニ傳称スル事ノ中ニハ、神變不可思議ニシテ、常識ヲ以テ推測スベカラザルコトアリ。人或ハ物理ニ乖戻スル事ト為シテ、一概ニ之ヲ擯斥スト雖、精細ニ研究シテ信憑スベキ徴候ノ存スル者ト否ル者トヲ甄別シテ、其孰カ信従スベク、孰カ否認スベキヲ定メザルベカラズ。［十三表］

無論、古来傳稱スル異説奇事ノ中ニハ、誕謾無稽ノ虚談少カラズト雖、人智ノ未進歩セザル時ニアリテハ疑フベカラザル事ヲモ疑ヒテ、其謬見ノママニ假定スルコトアリ。天然而上ノ法ハ言フマデモナク、天然ノ法ト雖、人智ノ未到達セザル所ニハ、奇怪ニシテ信憑スルニ足ラズトスルコト多多アリト雖、之ニモ拘ラズシテ、自ラ天然ノ法ヲ知悉セリト思意シテ、己ノ知ラザル所ヲ怪異ニシテ常理ニ反スト為スハ、畢竟自負自信ノ爲ニ己ヲ誤ル者ト謂フベシ。現今、理學應用ノ術發達シテ、氣海ノ操縱自在ナルヲ見ルモ、人之ヲ怪マズト雖、人智未發ノ時代ニアリテハ、此ニ想到スルコトダニナカリシナラン。斯

ク人智ノ尚未［十三裏］
到達セザル所ニモ幾多ノ未發ニ屬スルコトノ伏在セルカヲ知ラズ。人智ヲ以テ研究スルヲ得ベキ天然法ニ於テモ、已ニ斯クノ如クナレバ、況ンヤ天然而上ノ事ニ於テ神妙不可思議ノ事アリトテ、一概ニ之ヲ誕謾無稽ノ談ナリト論定シテ可ナランヤ。然レドモ神妙不可思議ナル事蹟ノ中ニモ、自ラ二種アリ。眞ニ神造物主ノ全能力ニ由リテ行ハルルコトト、貴下ノ所謂誕謾妖妄ニシテ信ズベカラザルコトト、是ナリ。斯ノ二者ヲ區別スルコト肝要ナリ。
貴下ハ『新約全書』ノ「馬利亜(マリア)爲約瑟(ヨセフ)所聘云云」[5]ノ語ヲ引キテ、支那ノ荒唐タル事迹ニ類スルモノナリト云ヒテ、『抱朴子』其他［十四表］
ノ異説奇事ヲ列擧セラレタリ。　貴下ハ斯ノ『聖書』ノ語ヲ以テ軽率ニモ支那ノ奇事怪説ト比較セラレタレドモ、斯ノ一段コソ真ニ天人ノ關係ヲ密接ナラシムル神恩ノ流露スル所ニシテ、斯ノ語ノ中ニハ深遠奥妙ナル意旨ヲ含蓄シテ基督教ノ建立セラルル根本ノ定義ヲ爲セリ。凡ソ基督教ニ於テ傳述スル所ノ神妙不可思議ノ事跡ハ、唯其一端ヲ擧ゲテ之ヲ見ル時ハ、他ノ荒唐無稽ノ神話ニ類スル所アルガ如シト雖、他ノ神話ノ類ハ、貴下ノ言ハルル如ク故ラニ其事蹟ヲ神奇ニシテ、庸人ニ畏敬尊崇ノ念ヲ起サシムルニ外ナラズシテ、他ニ何ノ重要ナル事件アルニモアラズ。又彼此相關係シテ［十四裏］
此ノ神奇ヲ顕現セザルベカラザル事アルニモアラズト雖、基督教ニアリテハ然ラズ。天下ノ人類ト密接ナル關係ヲ有チテ、生民救贖ノ大事業ヲ行ヒ給フ神ハ、其能力至大ニシテ、其跡推測スベカラザル者ナルガ故ニ、其人前ニ顕シ給フ事跡モ、神親ラニアリテハ敢テ故ラニ奇事異能ヲ行ヒ給フニモアラズ。唯其人類ノ爲ニ必要ナル事ヲ施シ給フナレドモ、其至大ナル能力ノ人間以上ニアルヲ以テ、人類ノ眼ヲ以テ見ル時ハ其未知未見ノ事ニ屬スルヲ以テ、奇怪不可思議ナル事ノ如ク見ラルルナリ。是レ皆人智ノ究ムベカラザル、天然而上ノ事ナルガ故ナリ。且神ガ此ノ天然而上ノ事ヲ人類ノ間ニ行ヒ給フハ、人類救［十五表］
贖ノ目的ト宗教的道徳ノ旨趣トヲ具フル者ニシテ、神ノ教會ヲ地上ニ建設スル事ニ關スル直接緊要ナル目的ニ由ラザルナシ。斯ル大目的アルニアラズシテ、無意義ニ行ハルル者ニハアラズ。前述ノ神ガ人體ヲ受ケテ世ニ降リ給ヒシコトノ如キモ、忽然顕現セシ一時ノ異象ニハアラズシテ、始祖陥罪ノ當時ニ於テ、已ニ神ノ預定シ給ヒシ所、且七百四十年前ニ預言イサイヤガ「有一處女懐孕而生子」（イザヤ書第七章14、所謂「インマヌエル」預言）

ト預言シタリシコトガ多クノ年所ヲ經テ應驗セシ者ナリ。而シテ其實現セシ事跡ハ天下萬世ノ後マデモ至大ナル關係ヲ有シテ、人類救贖ノ主因ト為リタリ。此ノ他、凡ソ『聖書』中ニ見ユル奇跡異能モ亦、神人相關ノ要［十五裏］

義ニ關セザルハナク、相互ニ密接ナル關係ヲ有タザルハナシ。譬ヘバ、綱ヲ提グレバ衆目隨ヒテ擧ガルガ如ク、或ハ電流ノ横溢スル所ニハ、何ノ處ヲ論ゼズ、之ヲ發スレバ必用ヲ爲スガ如ク、神造物主ノ大能力ノ彌滿スル所ニハ、行ハルル所ノ奇跡異能多種不同ナリト雖、神力ノ原動ヨリ發シ、人類ノ必要ニ應ジテ功用ヲ顯サザルナシ。是ノ故ニ神造物主ニ因リテ行ハルル天然而上ノ奇跡ト他ノ神奇怪異ノ談トハ、之ヲ事跡ニ鑒ミテ判定スルヲ得ベシ。

来書ニ云ク、若シ眞實ニ天ナリ神ナリガ直ニ訓示誡命スルモノトセラルルナラバ、生ハ雀躍拜跪、病床ヨリ起［十六表］

チテ、從来學ブ所ノ道ヲ悉ク撤去シ、俯伏趨走速ニ其ノ教ニ從フノ、後ルルヲ恐ルルモノナリ。

斯ノ一條ヲ見レバ、貴下ガ儒教ヲ確守セラルルニ拘ラズ、眞理探究ノ為ニ寛宏ナル度量ヲ有セラルルコトヲ知ルベシ。瞻仰ノ至ニ勝ヘズ。

来書ニ云ク、生ハ尚一歩ヲ進メテ、總テ人間世界ノ教ナル者ハ、貴教始メ印度ノ婆羅門、佛教、又支那ノ儒及ビ道教、我邦ノ神道モ一切其基本トスル所ハ、天ノ造物主宰ニアリテ、唯其風土人情國體ノ關係ヨリ其ノ教ノ方法上、道途ヲ異ニセルモノナリト推想セ［十六裏］

ントス。

人類ガ天上惟一ノ造物主ヨリ創造セラレタル表證トシテ、人ノ心靈ニハ、自己ヲ造成シ、又自己ヲ照管スル一大有能者アリテ、自己ノ運命ヲ支配スルガ如ク感想セラルルガ故ニ、人性通有ノ要求トシテ、有限ナル物體以外ニ、最上有權者ヲ戴キテ、之ニ敬拜祈求セズシテハ止マザルガ故ニ、世界中何ノ國、何ノ民ヲ論ゼズ、最上有權者ヲ其上ニ立テテ、之ニ敬事シ、之ニ祈願スルヲ常トス。斯ノ點ニ於テハ、貴下ノ説明セラレシ如ク、名称各異ナリト雖、何ノ教モ歸スル所ヲ同ジクシテ、共ニ其絶對至上者トスル所ノ者ニ敬拜祈求スト雖、此ヲ以テ全然同一ナリトハ斷定スベカラズ。或［十七表］

ハ斯ノ最上有權者ヲ以テ物質的世界ヨリ分離シテ、自己ヲ認識スル者ニアラズシテ、意識ナキ世界ノ本質ヲ爲ス者ナリトスル者アリ。或ハ物質的世界ヨリ全ク分離シテ獨立セルモノニアラズト雖、自己ニ存在ヲ有スル絶對ノ本質ナリト思惟スルモノアリ。其歸スル所ヲ同ジクスルガ如シト雖、其内容ニ於テハ、彼此其趣ヲ異ニシ、殊ニ基督教ト比較シテ大差アルヲ見ル。　貴下ハ圖ヲ示シテ一元氣ノ下ニ包括セラレタレドモ、意識ヲ具有セル活動體ト意識ヲ具有セザル理體トノ別アレバ、一概ニ元氣ヲ以テ統轄スベカラズ。諸宗彼此ノ相違アル點ヲ辨別セントスルニハ、各其教義ニ就キテ論述スベキ必要アレドモ、今ハ儒教對［十七裏］基督教ノ研究ニ屬スルガ故ニ、唯儒教ニ就キテノミ之ヲ言ハン。

儒教ニ於テ、天地ノ原動力又ハ至上有權者ト立ツル者ハ、二ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルヲ得ベシ。一ハ易道ノ解説ニ屬スル理論ニシテ、一ハ古聖賢ガ心性ノ要求ニ應ジテ發露セシ所ノ神靈上ノ直覺ナリ。易道ノ解説ニ据レバ、無極ナル太極アリテ、是ヨリ陰陽ノ両儀ヲ生ジ、陰陽ノ作用ニヨリテ萬物ハ化成セラレ、而シテ萬物ノ屈伸往来スル所ニ於テ鬼神ノ行動顯ルルナリ。然ラバ則、無極ナル太極ハ、　貴下ガ圖解セラレタル一元氣即理體ニシテ、是ヨリ生ジタル陰陽ハ物質ノ顕現ナリ。而シテ是レヨリ［十八表］化成セラレシ所ノ萬物ハ、外部ノ秩序井然タル物質的發現、即器械的能力ノ離合集散スル一大行動タルニ外ナラズ。即理體ヨリ生ジテ萬物ノ造成セラルルニ至ルマデ、總テ是レ無意識ノ行動ニシテ、智能ヲ具有セル一大有權者ノ活現スル所ヲ見ルナシ。然ルニ、鬼神ト云フ者ニ至リテハ、始メテ意識アル行動ヲ示スガ如クナレドモ、反リテ有形物質ニ屬スル者ノ屈伸往来ナリト云フニ於テハ、萬物造成ノ神體ニアラズシテ、萬物ノ理體ヨリ發スル行動ナレバ、意識ヲ具有スルガ如ク見ユレドモ、無意識ナル物質ノ理體ヨリスル行動ニハ意識アルベカラズ。畢竟其行動ノ不可思議ナルコト神靈アルガ如クニ感想セラルルノ［十八裏］ミ。是レ有限ノ人智ヲ以テ、到底揣量推測スベカラザルコトナリ。故ニ孔子モ只恭敬スルニ止メテ、之ヲ遠ザクト曰ヒ給ヘリ。之ニ反シテ孔子ガ屢「天」ト云ヒ、或ハ『詩』『書』等ニ「上天」「昊天」又ハ「皇天上帝」等ノ語アルハ、易道ノ解説ヲ離レタル心性ノ直覺ナルガ故ニ、只斯ノ方面ニ在リテハ、　貴下ノ言ハルル如ク我ガ基督教ニ於テ教フル所ノ神造物主ヲ認識セシ者ニ外ナラズ。唯其天然法ノ要求ニ由リテノミ識認シテ、天ノ直示ヲ蒙

ラザリシガ故ニ、思想粗大ニシテ、其詳細ヲ了得スル能ハザリシナリ。故ニ僕ハ、易道ノ解説ノ方面ニ於テハ、儒教ヲ以テ唯理論ナリト認メ、古聖賢ノ直覺ノ方面ニ於テハ、之ヲ唯一神教ノ［十九表］一種ト爲ス。圖説スレバ左ノ如シ。

易道ノ解説
- 無極―太極（躰理）
  - 陰
  - 陽
  - 道
    - 鬼氣
    - 神兼（理）―神妙（用）―乾性（惰）
    - 唯理論

古聖賢ノ認識
- 天
  - 上天―皇天―昊天―旻天（形躰）
  - 帝―上帝（主宰）
    - 唯一神教

来書中引用スル所ノ自識録短評

第四章　上帝ガ言語ヲ發シ、奇怪ナル神迹ヲ現スハ、基督教ニ就キテ之ヲ研究スレバ、歴歴トシテ確證アルヲ見ル。他ノ異［十九裏］

端邪教ノ奇事怪説ト同一視スベカラズ。斯ノ説、若シ一般ノ誕慢無稽ノ説ヲ為ス者ヲ戒ムルナラバ可ナリ。基督教ニ對スル批評ナラバ妄ナリ。又基督教ニハ神ガ偏愛スルコトナシ。

第十章　現世ノ萬象ニ循環アルハ、本章ニ言フ所ノ如シ。然レドモ、世界モ亦無限ニ循環スト想像スルハ謬レリ。世界ガ一定ノ時期ニ及ビテ消滅スルコトハ、神造物主ノ明示セラレシ所ニシテ、疑ヲ容ルベカラズ。唯終末ノ時アルコトヲ示サレシノミナラズ、終末ノ時ノ天地變動ノ形状ニ至ルマデモ詳細ニ預言セラレタリ。唯其時期ニ至リテハ、故ラニ告知セラレズ。此レ併シナガラ、永久ノ消滅ニハアラズシテ、更ニ美シキ新天新地ニ化成セラレテ、茲ニ第二ノ［二十表］

世界ハ現出スベシ。是ヨリ後ハ、復消滅變化スルコトナシ。是等ノ事ハ神造物主ヨリ明示セラルルニアラズンバ、人智ヲ以テ臆測シ得ベキコトニアラズ。

第三十章　天下多種ノ宗教ノ眞偽正邪ヲ研究セズシテ、一概ニ宗教ヲ以テ、「誠ヲ言ハズ、其説ク所怪誕不經ナラザルハナシ」ト斷定シタルハ、至極ノ暴論ナリ。批評スベキ價値ダニナキ者トス。

第三十一章　是モ淺薄ナル偏見ノミ。彼此言フニモ及バズ。

第三十八章　十字軍ノ事ハ、耶蘇教ヲ攻撃スル人ノ好材料ト爲ス所ナリ。此ノ事タル、無論悲惨ノ所業タルニ相違ナシ。然レ［二十裏］

ドモ、是レ基督教其者ノ罪ニアラズシテ、宗教ヲ偏信スル人民ノ罪悪ガ、偶宗教事故ノ上ニ於テ激發シタルノミ。宗教ニ對シテ健全ナル德義ノ發達シタル處ニハ、決シテ

斯ル悲惨ナルコトノ發現スベキモノニアラズ。即此等ノ争亂ヲ起シタルハ、共ニ他教派ニ屬スルモノニシテ、我等ノ信奉スル所ノ基督正教會ニハ何等ノ關係ヲモ有セザルナリ。

第四十八章　格物家ガ言フ所ノ物質ノ滅盡スルコトヲスラ信ズルニ、人間靈魂ノ不滅ナルヲ疑フハ、奇怪ノ至ナリ。人類ノ現世ニ生活スルハ、永遠無窮ニ活動シテ、神前ニ奉事スベキ為ニ準備スル所ノ短月日ノミ。人間ノ靈魂ノ不死不滅ナルハ、是レ乃萬物ノ［二十一表］靈長タル價値ノ存スル所ナリ。若シ死後消滅スル者ナランニハ、其運命ノ禍福鳥獸ト大差ナキナリ。豈此ノ理アランヤ。

第七十四章　是ハ先三十餘年前位ノ本邦人民ノ頑冥ナル思想ヲ代表セシモノナルベシ。唯其識見ノ固陋ナルヲ表白スルノミ。

自識録中ノ他ノ章ニハ、盖　貴下ガ所謂金玉ノ論卓拔ノ見アラン。唯以上ニ列擧セラレタル所ハ、多クハ是レ腐儒固陋ノ見ノミ。取ルニ足ラザルナリ。

来書第一義

貴下ハ吾ガ大主教ガ、孔子ガ神造物主ノ事ヲ教フル迄ニ至ラ［二十一裏］ザリシト云ヒシヲ擧ゲテ、如何ナルコトヲ指サレタルカト疑問ヲ發セラレタリ。固ヨリ孔子ハ天ノ事ヲ言ハレタレドモ、天ニ神造物主アリテ、人間ニ如何ノ關係ヲ及ボスコト、人間ハ神造物主ニ對シテ如何ナル道ヲ盡スベキカ等ノ事ヲ教ヘラレシコトナシ。神ト人トノ關係ハ、父子ノ情ヲ以テ結合セラレ、其慈憫愛憐、皆此ニ依リテ發現ス。儒教ノ天ニ對スル觀念ハ、專ラ「敬」ノ一字ニアリテ、「天」「旻天」等ノ語ニハ、微ニ其意ヲ含メリト雖、常ニ愛慕ノ情緒ヲ閑却ス。是等ヲ説明シテ、神造物主ヲ人心ニ銘刻セザレバ、安ゾ能ク神ヲ教フト云ハン。

第二義［二十二表］

貴下ハ又、大主教ガ儒教ハ人ノ渇ヲ醫スルニ足ル者ニ非ズト云ヒシニ對シテ詰問セラレタリ。　貴下ハ儒教ガ美風良俗ヲ養成シ、治國ノ績ヲ擧ゲ人民ヲシテ堵ニ安ゼシメタルヲ以テ、能ク渇ヲ醫セリト為セリ。何ゾ其思想ノ淺キ。大主教ノ述ベラレタル「渇」トハ、斯ル人生ノ要求ヲ指スニハアラズシテ、心靈上ノ永遠無窮ニ属スル渇ヲ言フナリ。人間ノ靈魂ハ、其量廣濶ナルガ故ニ、其希望モ亦至大ナレバ、迚モ美政良俗等、生活上ノ要求ヲ満

足セシムルノミヲ以テ足レリトスル者ニハアラズ。必天上ノ有能者ヲ識認シテ、其教誡ヲ實踐躬行シ、以テ永遠不朽ノ福樂ヲ享受スルニ至ラズンバ已マザル者ナリ。斯ノ要求ハ、基督教ヲ舍キテ他［二十二裏］

ノ何ノ教ヲ以テストモ満足セシムルコト能ハズ。故ニ、大主教ハ斯ク言ハレシナリ。　貴下ハ儒教ハ美果ヲ收メ得タリトテ満足シ、却リテ基督教ヲ以テ悪結果ヲノミ遺シシ者ノ如ク言ハレタレドモ、基督教ニ因リテ幾多ノ賢聖ガ興起シ、仁人君子ガ輩出シテ世ヲ導キ人ヲ教ヘテ、天下萬國ヲ薫化陶成シ、許多ノ美事善行ヲ為シシカヲ不問ニ付セラレタルハ遺憾ト謂フベシ。

貴下ノ質疑并ニ辨明ニ對シテ愚見ヲ開陳スルコト斯クノ如シ。冀ハクハ、坦懐弘慮以テ眞理ノ存スル所ヲ攻究シ給ハンコトヲ。［二十三表］

七月二十五日

尊書附記シテ、目下御起居之御消息ヲ御漏シ被下。謹デ拜讀仕候。来示ニヨレバ、始終御病氣勝ニテ御静養被爲在候。由時下炎暑、折角御自愛可被成候。宗教之慰藉ハ殊ニ病蓐ニ於テ意外ノ喜悦ト満足トヲ与フルコト不少候ヘバ、益御研究之程奉祈候。［二十三裏］

注

（1）『中井木莵麻呂キリスト教関係草稿類』（大阪大学附属図書館（懐徳堂文庫内新田文庫）蔵、蔵書票E149／天生関係38／365）は、中井木莵麻呂によるキリスト教関係の論説草稿。手稿。一帙に原稿用紙を仮綴した五冊の抄本を収めており、表紙題簽等は附されていないが、一行目にそれぞれ「正教訳語改定上ノ私見」・「聖母原罪有無論」・「第一月一日　聖六尾西利乙ノ伝」・「儒仏耶三教比較結論」・「大主教ニコライ師ノ命ヲ奉ジテ中井木莵麿拝覆ス」・「中井木莵麿再」と記されている。本稿では、「大主教ニコライ師ノ命ヲ奉ジテ中井木莵麿拝覆ス」を「返信1」、「中井木莵麿再」を「返信2」と略称する。

（2）このようなドグマが前提であれば、例えば、「夫れ倮蟲三百六十、人之が長と為す。人は物なり。万物の中の知慧有る者なり。其の命を天に受け、気を元に稟くる、物と異る無し。……何ぞ其の性類同じにして禍患別るるや（夫倮蟲三百六十、人為之長。人物也。万物之中有知慧者也。其受命於天、稟気於元、与物無異。……何其性類同而禍患別也）。」（『論衡』辨崇第七十二）など、人間と動物との間に本質的差異を認めない考え方は相容れないものとなろう。

（3）「九月　一日　日　晴……又開封一通　久保田啓十郎翁駁論」（『秋霧記』（明治四十年七月権輿）巻十四）

（4）「且聖人不知鬼神不知死、則安能制作」（『論語徴』先進「子路問鬼神」注）

（5）後にニコライと木蒐麻呂との手になった日本正教会の『我主イイススハリストスの新約』「マトフェイに因る聖福音」（所謂『新約聖書』の「マタイによる福音書」に当たる）には、「其の母マリヤイオシフに聘せられて、未だ婚せざる先に聖神に由りて孕めること見れたり」（『我主イイススハリストスの新約』「マトフェイに因る聖福音」第一章18）とある。